



KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS
RESEARCH INSTITUTE
FOR JAPANESE TRADITIONAL MUSIC

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター

令和7年度 前期

伝音セミナー

—日本の希少音楽資源にふれる—

「日本伝統音楽の講座に参加するのは初めて」という方にも、気軽に受講いただけるセミナーです。

聴講無料・申込不要 / 定員 各回50名

開催時間：各回とも14:45～16:15

会場

京都市立芸術大学 伝音セミナールーム

京都市下京区下之町57-1 (A棟1階)

- 地下鉄烏丸線・JR各線・近鉄京都線「京都」駅下車 徒歩6分
- 京阪電車「七条」駅下車 徒歩10分
- 市バス 4・7・16・81・205・南5号系統「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」下車すぐ



構内に駐車場はございません。
各種公共交通機関をご利用のうえご来場ください。

企画 | 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
ウェブサイト <https://rijtm.kcua.ac.jp/>

主催 | 京都市立芸術大学

問合せ先 | 京都市立芸術大学事務局 共創テラス・連携推進課

TEL 075-585-2006 (平日 午前8時30分～午後5時15分)

E-mail public@kcua.ac.jp

大学ウェブサイト <https://kcua.ac.jp/>

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts



第1回 7月24日(木)

ひとつの謡を様々に節付けする —江戸時代の能役者、岩井直恒による試み

講師：高橋葉子 日本伝統音楽研究センター客員研究員
藤田隆則 日本伝統音楽研究センター教授
荒野愛子 神戸女子大学大学院在籍

実演：浦田保親 観世流シテ方

京観世の能役者岩井直恒は、能楽の演出や技法に関する記録を多く残しましたが、中でも『絃なし琴』(神戸女子大学所蔵)は、ひとつの謡の詞章に対して16通りの節付けを施すという実験の記録です。『絃なし琴』の内容を紹介し、多様な節付けの再現を試みます。

協力：神戸女子大学 古典芸能研究センター

第2回 8月7日(木)

祇園小唄の世界

講師：大西秀紀 日本伝統音楽研究センター客員研究員

映画主題歌として昭和5年に生まれた「祇園小唄」は、数ある京都の唄の中でも古典といえます。

「月はおぼろに東山」で始まるメロディーは、誰もが耳にしたことがあるのではないのでしょうか。しかしこの曲に続き、多くの「〇〇祇園小唄」が生まれたことは、今ではほとんど忘れられています。今回は「祇園小唄」の世界へ、皆さんをご案内いたします。

第3回 9月4日(木)

乗り物とレコード

講師：大西秀紀 日本伝統音楽研究センター客員研究員

乗り物の進化は常に日本の近代化を支えてきました。よく「歌は世につれ」といいますが、人々は夢や希望やさまざまな思いを鉄道や船や飛行機に託し、そしてやがてそれらは歌になり、数多くのレコードに記録されました。今回は乗り物にまつわるレコードをご紹介します。

第4回 9月25日(木)

理解と曲解の音楽

—外から見た「日本らしさ」

講師：齋藤 桂 日本伝統音楽研究センター准教授

オペラ「蝶々夫人」のように、日本の外で日本文化を音楽に取り入れる試みは、現代のポピュラー音楽でも行われています。そこには、これだけ情報化が進んだ中にあってもなお、様々な曲解(に見える要素)が見られます。今回は、そんな曲解もまた理解の一つのありようなのだという視点に立って、日本の外の国々で創られた「日本らしい」音楽を、多ジャンルにわたって紹介します。